

Q1:日頃の活動や生活の中で生きることが難しいと感じる出来事や問題はありますか。

○多様化が進みその早さに付いていけない人達が居る。自己表現が苦手な人達は自分の心に蓋をして孤独感から心の病になっていると思われる。

○支援している方々の記録の中のことでありますが、身寄りのない、あるいは親族との関係が極端に悪く、見放されている方、また精神に疾患のある方の状態等気になることがあります。制度等を利用して、関係を持てているかたについては、状況等の把握は可能ですが、ごく一部の方であり、計画を策定する上でも、関係を持ていない大多数の方々にどう対応していくかが課題であると思います。

○ ある

○相談したい人がその内容、程度に応じて相談先がわかりやすい相談者が選べるツールの作成(相談先一覧等の作成)

○高齢者を対象とした相談業務においても、本人やその家族が自殺未遂が散見される。要因としては健康居問題(癌・難病・精神疾患)DV、ギャンブル依存、介護負担等様々である。しかも、専門職が介入しても突発的に起こってしまう。

○《地縁・血縁の希薄化》地方出身の方に限らず、実家(故郷)を離れると同時に血縁関係が薄れ、新たに構成された家族も少世代・少子化の影響もあって家族関係までが希薄になっています。地区内で子どもさんと同居している高齢者の女性グループ(3～5人)があります。そのグループは、雨の日も風の日も早朝から暗くなるまで、公園のベンチ、地域の集会施設で休憩しながら、歩き続けています。その中には、自宅で家族と食事を一緒にとることができず、キッチンを使うこともできないことから、宅配弁当をとっている方もいます。家に居場所が無いのです。
そのグループとは違う地区内を歩き続ける方がいます。ブラジルの日系二世三世を単純労働可として受け入れた家族の高齢者女性です。日本語が殆どできず、子どもさんが独立し、ご主人が働いている日中、話し相手が誰もいないのです。

○仕事が思うように進まない時に全てを放り出したいと思うときがあります。

○仕事の量、質が自分のキャパシティを超えてもそれを他者に任せる、頼むことができない時。

○今まで取り扱った自殺者の中には借金苦、うつ病を患っていた人等が多く何かの障害により精神的人が弱っている。特に自殺に走る人が多く見受けられる。

○・SNSの普及で便利な反面情報がすぐに拡散してしまう。
・自分からコミュニケーションをとれない大人が多い傾向がある。(自分の困り感を発信できない)
・長時間労働の実態。非正規雇用、失業者、低所得層の増加等社会の仕組みによる不安。
・家庭環境の複雑さ

○子どもの学校への保護者としての参加です。某小学校での教員の心ない言葉に私は自分なんていない方がいいと思いました。そう思わせてしまう、教育する立場の方の対応は課題ではないでしょうか？

Q3:今回、どのような計画にしたいと思いますか

○本人の個性、遺伝子的なこと、家庭環境、いじめ、仕事での人間関係等、負の連鎖を感じる。特にACについては心が痛む。生まれたときから愛情に満ちた環境は理想だが、家族のあり方が希薄担っている中、せめて教育現場で「一人で生きてゆける力」＝自分の暮らしを自分で整えるちからだけではなく、社会の中で他者と共に生きてゆく力を育てる家庭科を充実させて欲しい。

○難しい内容の計画だけではなく、確実に実践しないと意味がないので、実践できる計画にしたい。

○茅ヶ崎市の良さが活かされるような計画

○各分野、各団体の連携、家族を含めた受け皿づくり。悩んでいる人たちへの支えになれる計画

Q2:Q1の課題を含め今回の計画に盛りこんだ方が良いと考えていることはありますか。

○「類は友を呼ぶ！」自分の居場所を見つけるには、情報やサポートが必要と思う

○何らかのサインを出している場合はよいとして、どことも繋がりを持とうとしていない方の対応をどうするかではないでしょうか。また、情報の共有も重要となるとおもいますが、それぞれの関係機関の持っている情報、例えば入院通院歴、家族歴等についての共有ができるのでしょうか？プライバシー的なことがかなり含まれると思います。

○気軽に相談(話を聞いてもらえるだけでも可)できる”場”を設けたい。

○職場におけるメンタルヘルス対策等に係る取り組みについて、自殺総合対策大綱、かながわ自殺対策計画にある内容について盛り込むことは可能です。

○遺された者(家族や支援者)や最後に関わった者が「もしかしたら防げたのではないか」と自分を責めてしまうことがある。自殺防止のみならず、起こってしまった後のケアについても検討した方がよい。

○高齢者に限らず、地域内の居住者がいつでも誰でもが集える居場所(サロンに限らず、働く場所、遊ぶ場所、ボランティア活動等)作り。

○自分が困った時に相談できる相手、場所、方法を周知しておくの良いと思います。

○SOSの出しづらさは、どの年代においても自殺に傾きやすい人の特性だと思うので、その点にどうアプローチしていけるか。
○一度会議に出てみないと何が必要なのかが浮かばない。

○各分野、各団体の支援事業、相談窓口

○小・中学校を中心とした「いのちの授業」を各学校で必ずの計画。しかし、やるからには教員が授業をやる前に理解すべき。

○どこまで具体に入り込めるか、書き込めるかわかりませんが、実効性のあるものになればと思う

○一人でも自殺を思いとどまってもらえるような計画 ○一般市民にも理解してもらえる平易なもの

○短時間で文章にできるほどの具体的な計画は持ち合わせておりません。

○市民の皆様が利用しやすい、わかりやすい計画にしたいと思います。

○実のある計画、実践で使える計画。